

広陵町教育委員会だより

令和5年度

2月号

広陵町教育委員会

2月8日発行

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



梅の花 今盛りなり、百鳥(ももとり)の 声の恋(こほ)しき 春来(きた)るらし

巻5-834 小令史田氏肥人(しょうりょうしでんじのこまひと)
(梅の花が今を盛りと咲いています。たくさんの鳥の声を聞きたくなる春が来たのですね)



今年は「閏(うるう)年」!

2月に入り、3日は節分、そして4日は立春と暦の上では春となりました。まだまだ寒い日が続くようですが、庭先のウメやスイセンも咲き、春はもうすぐという感じがします。

能登半島地震から早1月以上が過ぎましたが、亡くなられた方は240人を超え、安否不明者も10人を超えています。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、未だに避難所で避難を強いられおられる方々にお見舞いを申し上げます。

広陵町では、七尾市能登島からの支援要請を受け、1月7日に簡易トイレやトイレトパーパーなどの生活用品とブルーシートなどを4トントラックに積み込み、支援物資を届けることができました。また、16日には、北葛城郡の4町が連携して、奈良県が支援要請を受けている穴水町に、4町から拠出された支援物資を4トントラック2台に積み込んで物資を届けました。さらには、1月31日~2月8日の間、町役場の職員2名が穴水町に建物被害の認定調査を主な業務とする内容で派遣されました。被災地の復旧・復興にはまだまだ時間がかかりますが、多くの人々の支援の輪が広がればと思います。



さて、今年度も残すところ一か月半ほどとなりました。子どもたちにとって、一年間の学習のまとめに取り組む時期となってきました。特に中学3年生にとっては、人生の大きな節目である高校入試が本番を迎えています。これまでの努力の成果が発揮されるよう精一杯がんばってほしいものです。また、年長児や小学6年生においては、就学、進学に向けた保育・学習とともに卒園・卒業に向けた思い出づくりなどの取組も進められています。学校・園においてもこの時期、教職員が一年間を振り返り、教育活動の成果や課題を明らかにし、総括する中で次年度に向けての準備が進められています。

ところで、今年は閏(うるう)年です。もともと「閏(うるう)」という言葉には、「平年よりも日数や月数が多い」という意味があります。つまりは「うるう年(閏年)」とは、「閏のある年」で平年よりも1日、日付が多くなる年のことを、うるう年と言います。

現在、世界で広く使われている暦は、地球が太陽の周りをま

わる周期をもとにした「太陽暦」です。しかし、地球が太陽の周りを1周するのにかかる日数は365日ではなく、365日よりおよそ1/4日長い、365.2422日(365日5時間48分46秒)です。このことは紀元前から天体観測で発見されており、その補正を行う必要があつて設けられたのが、うるう年なのです。

うるう年の歴史は、紀元前までさかのぼります。紀元前45年から、ローマの英雄ユリウス・カエサルによって「ユリウス暦」が導入されました。しかし、「ユリウス暦」で4年に1度のうるう年が制定されましたが、長い長い年月を経ていくと、暦と季節にズレが生じ、やがてそれが無視できないレベルにまで到達しました。そこで、ローマ教皇グレゴリウス13世は、地球が太陽をまわる時間を「365日よりわずかに0.2422日だけ長い」ことを天体観測で実証し、1582年、現在も使われている「グレゴリオ暦」に改暦されました。このグレゴリオ暦では、うるう年を次のように定めています。

ア、西暦が4で割り切れる年をうるう年とする

イ、西暦が100で割り切れて、400で割り切れない年は、平年とする

2020年や2024年はアに当てはまるので、うるう年となりますが、2100年、2200年、2300年はイに当てはまり、うるう年にはなりません。また、2000年や2400年は100で割り切れますが、400でも割り切れるため、うるう年となります。

また、2月に日数調整するのは、古代ローマの暦において、現在の2月にあたる月が1年の終わりの月でした。そのため調整するのに都合がよく、2月だけ平年は28日までだったり、うるう年の日数調整をしたりするようになったようです。



教育委員会関係団体の取組

広陵町PTA会員研修会が開催されました

1月19日(金)にかぐや姫ホールで、広陵町PTA会員研修会(講演会)が開催されました。講師は、現在、真美ヶ丘第二小学校・真美ヶ丘中学校でスクールカウンセラーとして活躍いただいている北野真佐枝氏でした。氏は、元公立保育園・幼稚園・小学校の教諭を歴任され、現在は奈良県教育委員会に所属されている方で、今回の講演は「先を見据えた子育てのために~子育てのエッセンスを探ろう~」というタイトルで、これまでに数多くの子どもたちや保護者にカウンセリングマインドをもって寄り添ってこられた豊富な経験を中心に話していただきました。

開会行事のあいさつで、私はこれまでに何度となく保護者の方々にお話をした一つに、アメリカの教育学者のドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」の一節を紹介するとともに「子どもたちが本当の生きる力を身に付けるのは、学習 裏面へ



による知識や技能だけではなく、子どもたちの知らない様々な未知の体験や経験が何よりも大切だと思います。そして、様々な体験や経験の中で、できたという成功体験は自己の自信や自尊感情を高めますが、それより挫折などの失敗体験を多く経験し、その失敗を乗り越えることができたなら成功体験より、もっともっと大きな強さにつながると思います。」と私の思いを話しました。



その後、北野先生の講演では、はじめに、スクールカウンセラーの仕事内容についての話がありました。カウンセリングの対象は、児童生徒、保護者、ときには教員も対象になること。相談内容には、不登校や友人関係、学習や進学、子育ての悩みや家庭内の悩みなど、多方面にわたっていること。そして、カウンセラーとしての立場は、守秘義務を持つことでの安心感と常に相談者の伴走者であることなど、これまでの数々の事例も紹介してのとてもわかりやすい話でした。特に相談者の思いを尊重するキーワードとして「共感と傾聴」を心がけていると話されていました。



次に、子育ての中で子どもとの関わり方では、まずは子どもの思いに耳を傾けてほしい。親はつつい自分の思いを優先して「あれしなさい。これしなさい。」と指示してしまいがちになるが、そうではなく、「こうしてほしいなあ。」などの「I(私)メッセージ」で伝えることで子どもは安心感・安堵感とともに期待されていると前向きな気持ちになれる。そのことが子どもにとって、自分で考えたり、行動したり、ときには考えたことを周りの人に伝えたりと自立心が芽生えることにつながるという話をされました。

その後、ワークショップとして、リフレーミング(ある枠組みで捉えられている物事を枠組みを外して違う枠組みで見ること)とストレスマネジメント(ストレスをなくすため音楽を聴いたり読書をしたりすること)についての問いと答えを話されました。そして、まとめとして、「親も自分を大切に日々を過ごしましょう。あなたの笑顔や生き生きした姿を子どもは見ています。その姿から子どもたちも、笑顔になり、パワーをもらっているのです。」と熱いメッセージを贈られ講演を終えられました。

教育委員会の取組

令和5年度読書感想文コンクール表彰式！

1月22日(月)、今年度で2回目となる読書感想文コンクール表彰式を開催しました。この取組は、子どもたちの活字離れに歯止めをかけること、学力調査の結果から課題があると思われる書く力、読む力を向上させること、そして何よりも子どもたちに読書習慣を身に付けることを目的に実施しています。



毎年10月27日～11月9日の読書週間に合わせて、担任の先生や国語の先生から読書感

想文の書き方も教えてもらい、小学校から950点、中学校から822点の応募がありました。

小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部、そして中学校の部から厳正なる審査の結果、それぞれの部で町長賞、教育長賞、図書館長賞を1点ずつ選考しました。

表彰式には山村町長をはじめ、教育委員の皆さん、図書館長、そして保護者の皆さんにも出席いただき受賞した子どもたちに花を添えていただきました。私はあいさつの中で、コンクールに至った経緯とともに「はらぺこあおむし」の絵本を読んで、小さいときに読み聞かせてもらったとき、小中学生のとき、そして大人になったとき、それぞれ内容の感じ方が発達段階によって変わることを、それぞれの文章で経験によってイメージが変わることを話しました。また、山村町長からは読書の良さ、読書習慣をつけてほしいこと、そして、町が進めている「まちじゅう図書館」についてあいさつをいただきました。図書館長からは、本に触れるすばらしさと本と読書の魅力を発見できる美しい絵本の「ほん book」を読み聞かせをしてもらいました。



表彰された皆さんを下記に紹介します。

【町長賞】	低学年の部	長井	梅衣さん(西小1年)
	中学年の部	植田	真緒さん(東小3年)
	高学年の部	寺輪	萌々華さん(真美一小5年)
【教育長賞】	中学校の部	安川	楓理さん(広陵中1年)
	低学年の部	中村	紬葵さん(真美二小1年)
	中学年の部	山岸	愛さん(北小3年)
【図書館長賞】	高学年の部	東口	絢美さん(北小5年)
	中学校の部	竹田	紗彩さん(真美中3年)
	低学年の部	高嶋	桃李さん(真美一小2年)
	中学年の部	大漉	一華さん(真美二小4年)
	高学年の部	奥野	蓮菜さん(東小6年)
	中学校の部	酒本	結衣さん(真美中3年)

北小学校が交通安全優良学校の表彰を受けました

広陵北小学校が、1月17日(水)に東京で行われた交通安全国民運動中央大会で交通安全優良学校として表彰されたことを受けて、1月24日(水)に吉田校長先生が山村町長と教育委員会にその報告に來られました。



この賞は、交通安全教育活動を積極的に推進し、児童生徒の交通安全教育と交通事故防止に顕著な功績があった学校に贈られ、今年度は47都道府県のうち、40校がこの賞を受賞されたようです。

北小学校は、校区における地域の人々の見守り活動が盛んで、日々の交通安全教育とともに登下校時の子どもたちと地域の人々が一体となって活動していることが評価されたようです。

